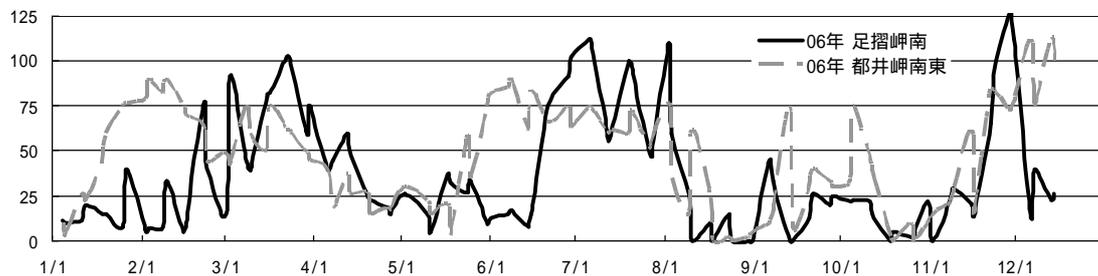




海況経過<平成 18 年 8 ~ 11 月>

黒潮

九州南東沖における黒潮は、6 月から継続していた離岸傾向が 8 月上旬に終息し、その後、9 月上旬まで接岸傾向で推移しました。9 月中旬から 10 月上旬までは離接岸を繰り返し、10 月下旬から 11 月上旬まで接岸傾向で推移しました。11 月中旬、九州南東沖に黒潮の小蛇行が形成されました。小蛇行の影響により黒潮は 12 月中旬現在、都井岬沖で離岸傾向、足摺岬沖で接岸傾向にあります。



足摺岬：接岸 0 ~ 25 マイル やや離岸 25 ~ 45 マイル 都井岬：接岸 0 ~ 30 マイル やや離岸 30 ~ 50 マイル

図 1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離 (南西東海沿岸海況速報より)

水温

豊後水道の水温 (0m、10m、20m、30m、50m 及び 75m 層) は全般的に「平年並み」~「やや高め」で推移しました。8 月は台風の影響でデータが取れませんでした。9 月は水道北部と南部で「平年並み」、中部で「やや高め」でした。10 月は北部と中部で「平年並み」、南部で「やや高め」でした。11 月は北部で「やや高め」、中部と南部で「平年並み」でした (表 1)。

伊予灘と別府湾の水温 (0m、10m、20m、30m 及び 50m 層) は、全般的に「平年並み」~「やや高め」で推移しました。伊予灘の 8 ~ 10 月は「平年並み」、11 月は「やや高め」でした。別府湾の 8 ~ 10 月は「平年並み」、11 月は「高め」でした (表 2)。

塩分

豊後水道の塩分は、降雨量が多かった影響もあり、全般的に「やや低め」で推移しました。9 月は北部と南部で「やや低め」、中部が「平年並み」でした。10・11 月は北部で「低め」、中部が「やや低め」、南部が「平年並み」でした (表 3)。

伊予灘と別府湾の塩分も降雨量が多かった影響を受け、全般的に「低め」基調が継続し特徴的な海況となりました。伊予灘の 8 月は「低め」、9 月は「やや低め」、10 月は「低め」、11 月は「やや低め」でした。別府湾の 8 月は「きわめて低め」、9 月は「きわめて低め」~「平年並み」、10 月は「低め」、11 月は「やや低め」でした (表 4)。

表1 沿岸水温の平年偏差の評価(豊後水道2006年)

海域	水深	2006年7月	2006年8月	2006年9月	2006年10月	2006年11月
豊後水道	観測日	7/11-13	欠測	9/12-13	10/16-17	11/13
北部 (大分)	0m	-+	//	-+	-+	+-
	10m	+-	//	+-	+-	+
	20m	+-	//	+-	+-	+
	30m	+-	//	+	+-	+
	50m	+-	//	+	+-	+
	75m	+-	//	+-	+-	+
豊後水道	観測日	7/12,14	//	9/11-12	10/17-18	11/13-14
中部 (大分)	0m	+	//	+-	-+	-+
	10m	+	//	+	+-	+-
	20m	+	//	+	+-	+-
	30m	+	//	+	+-	+-
	50m	+	//	+	+-	+
	75m	+	//	+-	+	+-
豊後水道	観測日	7/14	//	9/12	10/18	11/14
南部 (大分)	0m	+	//	-+	+	-+
	10m	+	//	+-	+	+-
	20m	+	//	+-	+	+-
	30m	+	//	+-	+	+-
	50m	+	//	+-	++	+
	75m	+-	//	-+	++	+

11月は調査機器の故障により豊後水道の中部と北部の5定点で欠測となった。

表2 沿岸水温の平年偏差の評価(伊予灘・別府湾2006年)

海域	水深	2006年7月	2006年8月	2006年9月	2006年10月	2006年11月
伊予灘西部	観測日	7/4-5	8/2-3	9/5,7	10/3-4	11/8-9
(大分)	0m	+-	+	-+	+-	+
	10m	+-	-+	-+	+-	+
	20m	-	-+	-+	+-	++
	30m	-	-+	+-	+-	++
	50m	-	-	-+	+	+
別府湾	観測日	7/3-5	8/1-3	9/4,5,7	10/2,4	11/6,9
	0m	+-	+	+	+-	+
	10m	-	+-	+-	+-	++
	20m	-	-+	-+	+	++
	30m	-+	-	+-	+-	++

注) + + + :きわめて高め + + :高め + :やや高め + - :高めの平年並
 - + :低めの平年並 - :やや低め - - :低め - - - :きわめて低め

表3 沿岸塩分の平年偏差の評価(豊後水道2006年)

海域	水深	2006年7月	2006年8月	2006年9月	2006年10月	2006年11月
豊後水道	観測日	7/11-13	欠測	9/12-13	10/16-17	11/13
北部 (大分)	0m	-+	"	-	--	-
	10m	-+	"	-	--	--
	20m	-	"	-	--	--
	30m	-	"	--	--	--
	50m	-	"	-	--	-
	75m	-	"	-	--	--
豊後水道	観測日	7/12,14	"	9/11-12	10/17-18	11/13-14
中部 (大分)	0m	-+	"	-+	-	-
	10m	-	"	-+	-	-
	20m	-+	"	-+	-	-
	30m	-+	"	-+	-	-
	50m	-+	"	-+	-	-
	75m	-+	"	-+	-	-+
豊後水道	観測日	7/14	"	9/12	10/18	11/14
南部 (大分)	0m	-+	"	-+	+-	-+
	10m	-	"	-	+-	-+
	20m	-+	"	-	+-	-+
	30m	-+	"	-	+-	-+
	50m	-+	"	-	+-	-+
	75m	-+	"	-+	-	-+

11月は調査機器の故障により豊後水道の中部と北部の5定点で欠測となった。

表4 沿岸塩分の平年偏差の評価(伊予灘・別府湾2006年)

海域	水深	2006年7月	2006年8月	2006年9月	2006年10月	2006年11月
伊予灘西部	観測日	7/4-5	8/2-3	9/5,7	10/3-4	11/8-9
(大分)	0m	--	---	--	-	-
	10m	-	---	-	--	-
	20m	-+	--	-	--	-
	30m	+-	--	-	--	-
	50m	-+	---	---	-	-
別府湾	観測日	7/3-5	8/1-3	9/4,5,7	10/2,4	11/6,9
	0m	-	---	-+	+-	-
	10m	-+	---	---	--	--
	20m	-+	--	--	--	-
	30m	-+	-	-	--	-

今後の海況の見通し<平成19年1~6月>

黒潮

九州南東沖に存在している規模の大きい黒潮の小蛇行が12月~1月、四国沖を東進するでしょう。また、都井岬沖の離岸傾向は1月まで継続するでしょう。黒潮小蛇行の東進に伴う黒潮の離接岸変動に伴って、沿岸域へ一時的に暖水が波及することがあるでしょう。

沿岸水温

平年並み「~高め」で推移するでしょう。

予測の根拠

・中央水産研究所及び関係府県「平成18年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2006)」

・福岡管区気象台の「九州北部地方3か月予報」

マイワシ

2006年7～11月の漁況経過

県南まき網における2006年7～11月の漁獲量は345トンで、1986～2005年までの比(以下「平年比」という)14%、前年比342%となりました。6年ぶりに300トンを越える漁となりましたが、依然としてマイワシ資源は低水準のままです。

7月は豊後水道南部で被鱗体長12～13cm前後の個体がウルメイワシに混じって323トン漁獲されました。7月以降はまとまった漁獲は継続せず、8～9月はごく僅かに混獲される状況となり、10月以降は混獲もほとんどありませんでした。

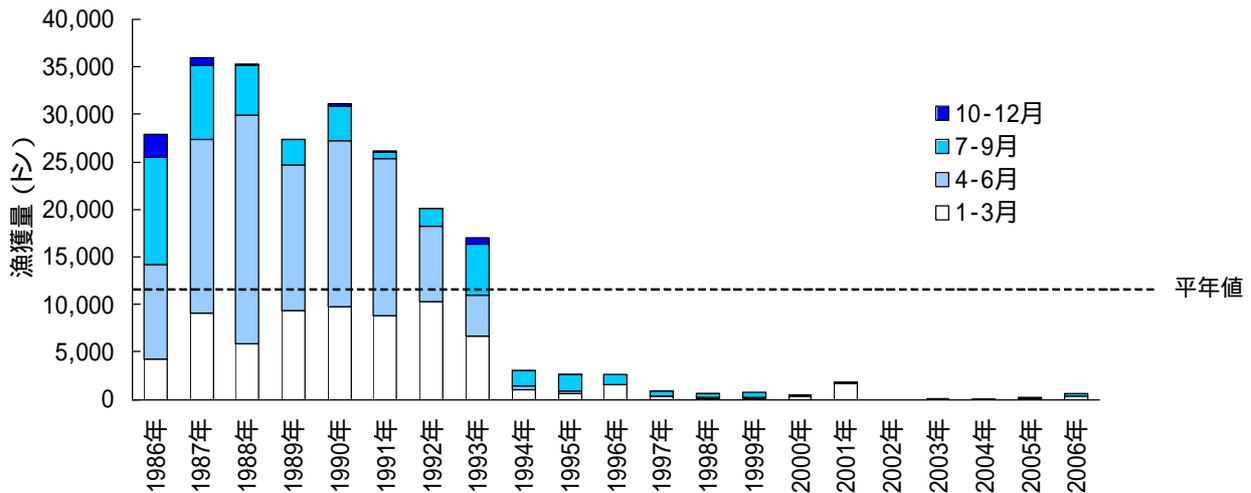


図2 マイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成19年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は依然として低水準で、前年並みか前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は被鱗体長19cm前後の1歳魚(2006年級群=2006年生まれ群)が主体で、4～6月からは7～12cm前後の0歳魚(2007年級群)が漁獲対象となるでしょう。

【説明】

近年の調査結果によれば、1～3月に1歳魚、4～6月に0歳魚が漁獲される傾向にあります。漁況経過からみると、2006年級群(年明け1歳魚)の資源水準は1980年代に比べて極めて低いままですが、漁獲水準は過去5年を上回っています。0歳魚(2007年級群)の来遊水準については、現段階では不明ですが、近年と同様に低水準であると想定されます。以上のことから判断して、来遊水準は低水準の前年並みか前年を上回ると考えられます。

カタクチイワシ (成魚)

2006年7～11月の漁況経過

県南まき網における2006年7～11月の漁獲量は1,115トンで、平年比93%、前年比71%と平年並みで、好漁であった前年を下回りました。佐伯湾のまき網では7月に被鱗体長10cm前後の大羽が、8～9月に8cm前後の中羽と0cm前後の大羽が、10月に8cm前後の中羽が漁獲されました。9～10月は平年を上回る漁となりましたが、11月以降は不漁となっています。

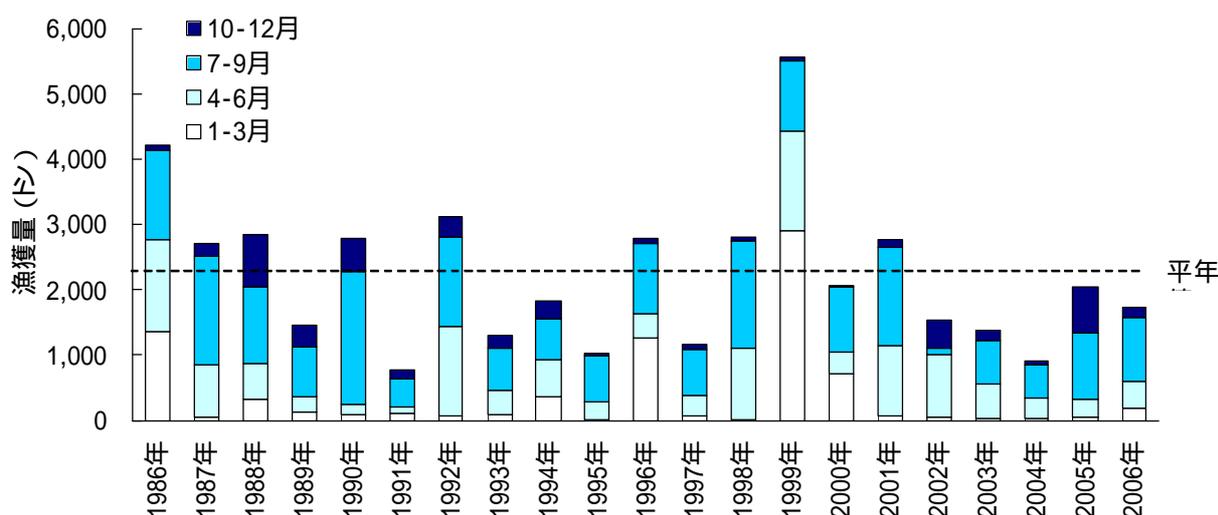


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成19年1～6月>

来遊水準：

豊後水道南部への来遊量は、近年では比較的好漁であった前年を下回るでしょう



漁獲対象年級群及び体長：

1～5月は被鱗体長8～12cm前後の1歳魚(2006年級群)が主体で、6月以降は6cm前後の0歳魚(2007年級群)が1歳魚に混じるでしょう

【説明】

近年の調査結果によれば、1～5月の間は1歳魚が僅かに漁獲され、6月以降に1歳魚と0歳魚が混じって多獲される傾向にあります。漁況経過をみると、2006年級群(年明け1歳魚)のシラス銘柄時の漁獲量は平年比52%、前年比54%と平年、前年(好漁)を下回りました。また1歳魚(2006年級群)が漁獲の主体となった7-11月のまき網漁獲量は平年並みで、好漁であった前年を下回りました。以上のことから2006年級群の資源水準は加入豊度の高かった2005年級群より低いと考えられます。よって、1～6月の漁獲主体となる1歳魚(2006年級群)の来遊水準は、近年では比較的高水準であった前年を下回ると考えられます。なお、0歳魚の来遊水準は現段階では不明です。

ウルメイワシ

2006年7～11月の漁況経過

県南まき網における2006年7～11月の漁獲量は1,094トシで、平年比278%、前年比265%と前年・平年を大きく上回りました。このうち、7月は佐伯湾において被鱗体長10cm前後の0歳魚(2006年級群)が主に漁獲され、8月は佐伯湾で10cm前後(2006年級群)、豊後水道南部で17cm前後(2005年級群)の個体が主に漁獲されました。9～10月は豊後水道南部において10～13cm前後の0歳魚(2006年級群)が主に漁獲されました。11月以降は漁獲が無い状況にあります。

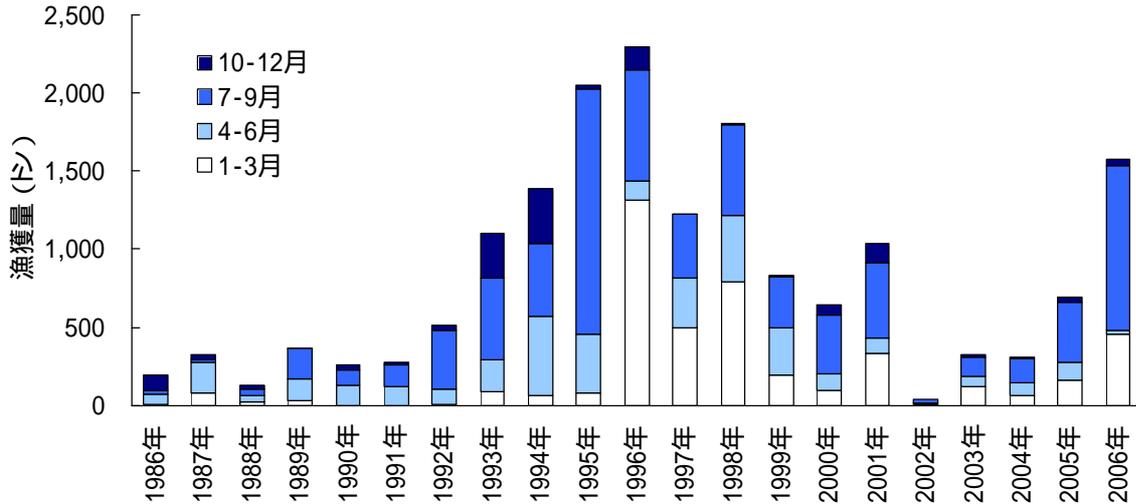


図4 ウルメイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成19年1～6月>

来遊水準：

豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう



漁獲対象年級群及び体長：

1～3月は被鱗体長20cm前後の1歳魚(2006年級群)が主体で、4～6月は5～12cm前後の0歳魚(2007年級群)が漁獲対象となるでしょう

【説明】

近年の調査結果によれば、1～3月に1歳魚が、4～6月に0歳魚が漁獲され、1歳魚の漁獲量が0歳魚よりも多い傾向にあります。2006年の漁況経過をみると、例年0歳魚が漁獲主体となる下半期のまき網漁獲量が前年・平年を大きく上回ったことから2006年級群(年明け1歳魚)の資源水準は2005年級群より高いと考えられます。また、前年3～11月の漁獲量が多ければ、1～6月の漁獲量が多くなる傾向があり、これから推定すると約766トシ(前年比160%、平年比205%)の漁獲となります。以上のことから判断して、1～6月の漁獲量の大部分を占める1歳魚の来遊水準は、前年を上回ると考えられます。0歳魚の来遊水準は現段階では不明です。

マアジ

2006年7～11月の漁況経過

県南まき網における2006年7～11月の漁獲量は1,180トンで、平年比60%、前年比55%と平年・前年を大きく下回りました。7月に佐伯湾で尾叉長17cm前後の1歳魚(2005年級群)が、8月に豊後水道中部で尾叉長20～25cm前後の中銘柄が散発的に漁獲された以外は、期間を通して尾叉長11～15cm前後の0歳魚(2006年級群)が漁獲の主体でした。定置網など各種沿岸漁業においてもマアジ0歳魚(ゼンゴ)は不漁となっています。

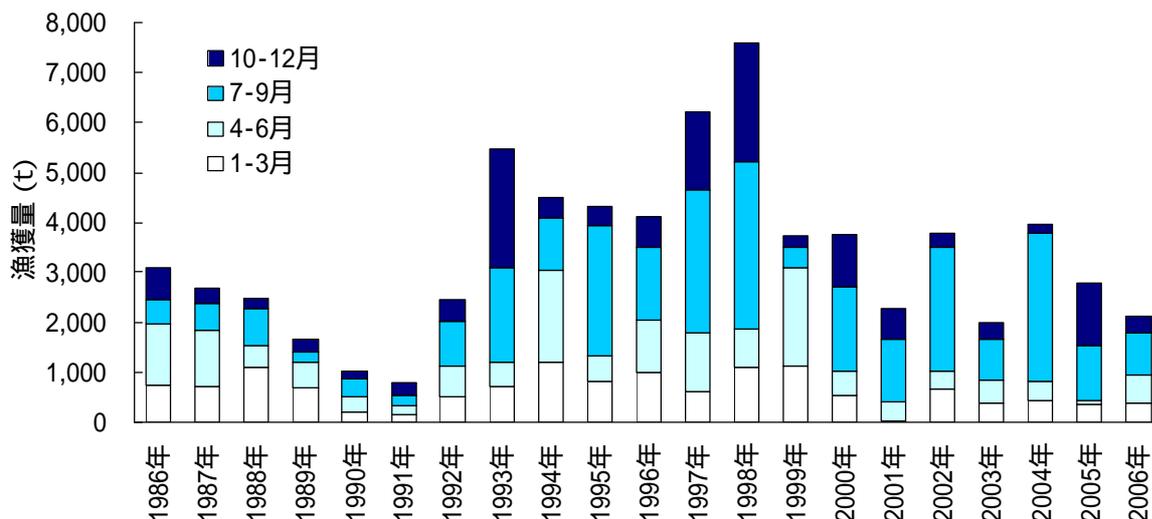


図5 マアジのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成19年1～6月>

来遊水準：

豊後水道南部への来遊量は前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長：

15～20cm前後の1歳魚(2006年級群)が漁獲の主体で、2歳魚以上(20cm以上)が混じる程度でしょう。5月以降に0歳魚(2007年級群)が漁獲に加わるでしょう。

【説明】

近年の調査結果によれば、1～6月は1歳魚が漁獲の主体で、2歳魚以上は散発的に漁獲される傾向にあります。2006年の漁況経過をみると、例年0歳魚(ゼンゴ)が漁獲主体となる下半期のまき網漁獲量が前年・平年を大きく下回ったことから、2006年級群(年明け1歳)の資源水準は2005年級群より低いと考えられます。また、前年の漁獲量が少ないと1～6月の漁獲量が少なくなる傾向があり、これから推定すると約856トン(前年比90%、平年比62%)の漁獲となります。以上のことから判断して、1～6月の漁獲の主体となる1歳魚の来遊水準は前年を下回ると考えられます。

サバ類

2006年7～11月の漁況経過

県南まき網における2006年7～11月の漁獲量はゴマサバ主体の1,901トシで、平年比53%、前年比20%と平年、前年(豊漁)を下回りました。昨年豊漁であったゴマサバ2004年級群(2歳魚：尾叉長30cm前後)が7月に豊後水道中部・南部で多獲(平年比182%)されましたが、8月以降は2歳魚主体の漁は継続せず、1歳以下のゴマサバ小型魚主体に前年・平年を下回る低調な漁となりました。また、10月にはマサバ0歳魚が若干量混獲されました。

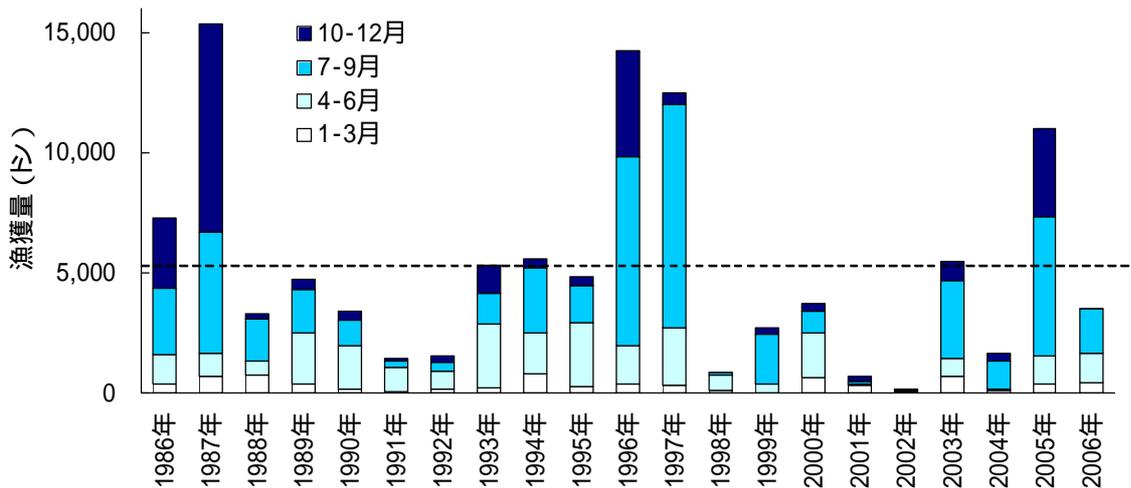


図6 マサバ・ゴマサバのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成19年1～6月>

来遊水準：

豊後水道南部への来遊量は、ゴマサバ主体に前年を下回るでしょう



漁獲対象年級群及び体長：

1～4月はゴマサバ3歳魚(2004年級群)主体に、2歳魚(2005年級群)、1歳魚(2006年級群)が混じるでしょう。5月以降に内湾域で0歳魚(2007年級群)が加わるでしょう。

【説明】

近年の調査結果によれば、1～6月は25～35cm(1歳以上)のゴマサバが主に漁獲され、6月以降に漁獲量が急増し盛漁期となる傾向にあります。

漁況経過からみると、例年0～1歳魚が漁獲主体となる下半期のまき網漁獲量が前年・平年を大きく下回ったことから、2006年級群(年明け1歳魚)と2005年級群(年明け2歳魚)の資源水準は2004年級群(年明け3歳魚)に比べて低いと推定され、今後の好漁は期待できません。

また、2005(平成17)年のゴマサバ豊漁の主体となった2004年級群(年明け3歳魚)は2006(平成18)年の冬春期にも多獲され、卓越年級群(特異的に資源量の多い発生群)であると判断されました。しかし、過去の卓越年級群の事例をみると、成長して3歳魚以上になると本県海域では多獲されないようです。以上のことから判断して、1～6月におけるゴマサバの来遊水準は資源水準の高い2004年級群が多獲された前年を下回ると考えられます。

その他

漁況予測の根拠

中央水産研究所及び関係府県 :平成18年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料 (2006)

用語解説

年級群 : ある年生まれの同種の個体群。2006年級群 = 2006年生まれの個体群。

被鱗体長 : 体の前端から 尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。

尾叉長 : 体の前端から 尾びれの湾入部内縁中央 (くびれている部分) までの直線距離。

問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究センター水産試験場 栽培資源担当 (山田) まで

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156